

追悼



村山茂明先生を偲ぶ

村山茂明先生が2016年11月19日にお亡くなりになった。享年91歳。お会いするたびに驚かされる、お元気な姿しか思い浮かばないだけに、この訃報には驚かされた。

先生は、森林から材を運び出す索道の設計理論がご専門であったが、私が林業工学研究室に入った頃には、索道に関する研究はほぼ終了しており、次の課題として傾斜地での集材車両の開発研究を始められたところだった。演習林にご一緒する際の先生は、運転では制限速度厳守、実験時もワイシャツ、背広に革靴で指導されるなど、いつも服装に気を配る紳士の印象が強かった。その先生が、昼食時には4階の研究室から仏庭を隔てた生協食堂まで全力で走っておられた。とても奇異な光景であったが、多分あれが先生の健康維持・長寿法だったのであろう。

先生が担当された林業工学の講義は索張理論を中心とし、微積やハイパボリックサインまで飛び出す難解なものであったが、部屋に戻られると学生の初歩的な質問に気さくにお答えくださっていた。特に、お酒の場では、最新の論文の

話を解説してくださり、機械開発構想などについて様々なアイデアをお聞かせ下さった。お酒が回ると、口癖のように「研究はWhat is what」だとおっしゃっては、「愉快、愉快」と笑っておられた。

先生は、退職後も研究をまとめる活動を続けられ、2冊の著書が出版されている。このあとがきを読んで、長年の疑問だった、先生の「What is what」がやっと理解できたように思う。先生にとって、「What is what」は「理論的に導かれる理想」に「実学的な解を与える」研究・作業であり、生涯「実学」としての林業工学を追求し続けていらしたのだと思う。最後まで貴重なご指導有り難うございました。

林業機械を目指した多くの学生に大きな影響を与えてくださった先生に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

(森林科学科 教授 田坂 聡明)



記念史の頒布

このほど、宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会創立90周年記念史編纂委員会の編集による「宇都宮大学農学部創立90周年記念史」が発刊されました。本書は、A5版、約250ページ、全13章から構成され、学部・研究科改組、連合大学院の設立、法人化など、1980年中盤から創立90周年を迎えた2012年までの主に30年の農学部に関連する出来事について記述されています。また、本書は、来たる2022年の創立100周年に向けて、資料の散逸を避けることを主な目的として編集が進められております。そのため、史実が中心にまとめられており、これまでに発刊されている「創立五十周年記念史」や「宇都宮大学四十年史」などとは編集内容が多少異なります。各章のタイトルは以下の通りです。



- 序章 はじめに／第1章 設立から昭和50年代後半までの沿革
- 第2章 農学部および農学研究科の再編／第3章 連合農学研究科の設立と展開
- 第4章 法人化／第5章 組織・運営／第6章 教育／第7章 地域貢献
- 第8章 国際交流／第9章 施設／第10章 創立記念行事等
- 第11章 学科・コース、附属施設、関連施設／第12章 農学部峰ヶ丘同窓会／附表

ご希望の方には、実費（書籍代および郵送料計1部2000円）で頒布しますので、郵便振替（00330-0-357、宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会）にてお申し込みください。お申し込みの際には、お手数ですが、通信欄に「90周年記念史購入希望」とご記入ください。また、大変恐縮ではございますが、振込手数料は、購入者ご自身のご負担でお願い致します。本書は増刷等の予定はございませんので、残部が無くなり次第、販売を終了させていただきます。あらかじめご了承ください。なお、本書は、PDF版も用意しております。詳細は、峰ヶ丘同窓会事務局までお問い合わせください。